



県 章

沖縄県公報

定期発行日

毎週火・金曜日

(当日が県の休日に
当たるときは休刊とする。)

目 次

告 示

- 漁船損害等補償法に基づく付保義務の同意の認定（水産課）…………… 1
- 漁船損害等補償法に基づく付保義務の消滅（水産課）…………… 1
- 都市計画の変更・2件（都市計画・モノレール課）…………… 1
- 都市公園の供用の開始（都市計画・モノレール課）…………… 2

公 告

- 開発行為に関する工事の完了（建築指導課）…………… 2

公安委員会事項

- 違反者講習の実施等に関する規則…………… 2
- 道路交通法による指定講習機関の指定…………… 18

告 示

沖縄県告示第590号

漁船損害等補償法（昭和27年法律第28号）第112条の2第3項の規定により、粟国加入区について普通損害保険契約の締結の同意があったものと認める。

平成26年11月21日

沖縄県知事 仲 井 眞 弘 多

沖縄県告示第591号

漁船損害等補償法（昭和27年法律第28号）第113条の2第1項第1号の規定により、平成22年沖縄県告示第571号で同意の認定をした与那城加入区について普通損害保険に付すべき義務が消滅した。

平成26年11月21日

沖縄県知事 仲 井 眞 弘 多

沖縄県告示第592号

都市計画法（昭和43年法律第100号）第21条第2項において準用する同法第18条第1項の規定により、那覇広域都市計画区域区分を変更した。

なお、当該都市計画の図書を次のとおり縦覧に供する。

平成26年11月21日

沖縄県知事 仲 井 眞 弘 多

- 1 都市計画の名称 区域区分（8号岸壁）
- 2 都市計画の変更に係る土地の区域
 - (1) 追加する部分 浦添市西洲二丁目
 - (2) 削除する部分 なし
- 3 縦覧場所 沖縄県土木建築部都市計画・モノレール課及び浦添市都市建設部都市計画課

沖縄県告示第593号

都市計画法（昭和43年法律第100号）第21条第2項において準用する同法第18条第1項の規定により、那覇広域都市計画臨港地区を変更した。

なお、当該都市計画の図書を次のとおり縦覧に供する。

平成26年11月21日

沖縄県知事 仲 井 眞 弘 多

- 1 都市計画の名称 浦添臨港地区
- 2 都市計画の変更に係る土地の区域
 - (1) 追加する部分 浦添市西洲二丁目及び西洲三丁目
 - (2) 削除する部分 なし
- 3 縦覧場所 沖縄県土木建築部都市計画・モノレール課及び浦添市都市建設部都市計画課

沖縄県告示第594号

都市公園法（昭和31年法律第79号）第2条の2の規定により、次のとおり都市公園の供用を開始する。

平成26年11月21日

沖縄県知事 仲 井 眞 弘 多

- 1 名称 首里城公園
- 2 位置 那覇市首里金城町1丁目、首里当蔵町1丁目、首里当蔵町2丁目、首里当蔵町3丁目及び首里真和志町1丁目
- 3 区域 次の図のとおり（「次の図」は、省略し、その図面を沖縄県土木建築部都市計画・モノレール課において縦覧に供する。）
- 4 供用開始の期日 平成26年11月21日

公 告

都市計画法（昭和43年法律第100号）第36条第2項の規定により、次の開発行為に関する工事が完了したので、検査済証を交付した。

平成26年11月21日

沖縄県知事 仲 井 眞 弘 多

- 1 開発許可年月日及び指令番号 平成26年1月14日 沖縄県指令土第11号
- 2 開発区域に含まれる地域の名称 豊見城市字保栄茂山羊原611番1
- 3 公共施設 なし
- 4 開発許可を受けた者の住所及び氏名 宮古島市平良字久貝1041番地2 平良住宅3-202 當間豊
- 5 検査済証番号 平成26年11月12日 第4150号
- 6 工事完了年月日 平成26年10月15日

公安委員会事項

沖縄県公安委員会規則第10号

違反者講習の実施等に関する規則を次のように定める。

平成26年11月21日

沖縄県公安委員会

違反者講習の実施等に関する規則

（趣旨）

第1条 この規則は、道路交通法（昭和35年法律第105号。以下「法」という。）、道路交通法施行令（昭和35年政令第270号）、道路交通法施行規則（昭和35年総理府令第60号。以下「府令」という。）及び沖縄県道路交通法施行細則（昭和47年沖縄県公安委員会規則第10号。以下「県細則」という。）の規定に基

づき沖縄県公安委員会（以下「公安委員会」という。）が実施する法第108条の2第1項第13号に掲げる講習（以下「違反者講習」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（講習の通知等）

- 第2条** 違反者講習通知書（府令別記様式第22の11の2）には、府令第38条の4の2に定めるもののほか、違反者講習の実施区分とこれを選択できる旨、実施区分ごとの具体的な講習を行う日時・場所を記載するものとし、必要に応じて、講習所要時間、携行品（講習通知書、運転免許証、講習（通知）手数料、その他講習に必要なもの）、服装等の受講上の注意事項等を記載するものとする。
- 講習日時を指定するに当たっては、受講者の利便を考慮しながら県内の実情を踏まえ、講習の効率性を勘案して行うものとする。この場合において、講習指定日に受講者の都合により受講できないときは、改めて指定するよう配慮するものとする。
 - 違反者講習通知書を送付するときは、配達証明郵便に付するものとする。この場合において、郵便は、封書によるものとするが、はがき（シール式）により行うことも差し支えないものとする。
 - やむを得ない理由により受講期間内に講習を受けられず、その後に講習を受けたいと申出をする者には、やむを得ない理由のあったことを証するに足りる書類を提出させることとなるが、書類により相当な理由の確認ができれば速やかに講習を受けさせるものとする。
 - 違反者講習の通知をしようとする場合において、講習対象者がその住所地を他の都道府県に変更していたときは、その者に対し速やかに住所変更の届出を行うよう指導するとともに、速やかに現にその住所地を管轄する公安委員会（以下「新公安委員会」という。）に違反者講習移送通知書（様式第1号又は様式第2号）を送付するものとし、違反者講習移送通知書の送付を受けたときは、速やかに講習対象者に違反者講習の通知をするものとする。
 - 違反者講習の通知をした後に、講習対象者が他の都道府県に住所地を変更した場合において、その者が新公安委員会の行う違反者講習の受講を希望するときは、その者に対し速やかに住所変更の届出を行った上で受講の申出をするよう指導するとともに、自ら又は新公安委員会からの連絡を受けて、新公安委員会に違反者講習通知移送通知書（様式第3号又は様式第4号）を送付するものとする。
 - 違反者講習移送通知書又は違反者講習通知移送通知書の送付を受けた場合において、講習対象者が受講期間内に講習を受けなかったときは、その者が違反者講習の基準に該当することとなった時における住所地を管轄する公安委員会に違反者講習期間経過通知書（様式第5号又は様式第6号）を送付するものとする。

（受講者の確認等）

- 第3条** 講習実施に際し、違反者講習通知書、運転免許証等により受講対象者本人であることを確認するとともに、運転免許証の有効期間内であることを確認するものとする。

（講習の内容）

- 第4条** 講習は、違反者講習の講習科目及び時間割等に関する細目（別表）その1「四輪運転者用」及びその2「二輪運転者用」に準拠し、県内の交通実態に即して重点を選定するなど実質的效果の上がるような内容の講習指導案を作成して実施するものとする。

（講習の実施区分）

- 第5条** 違反者講習は、講習を受けようとする者の選択により、運転者の資質の向上に資する活動（以下「社会参加活動」という。）を体験させることを含む講習（以下「社会参加活動を含む講習」という。）及び社会参加活動を含む講習以外の講習（以下「社会参加活動を含まない講習」という。）に区分して行うものとする。
- 社会参加活動を含む講習は、次の2つのコースを設け、受講者に選択させるものとする。
 - 指定した講習日（複数の指定日によることもある。）にあらかじめ社会参加活動の体験をさせた上で、その後に、別に指定した講習日に座学等（筆記による検査に基づく指導及び自動車等の運転について必要な適性に関する調査で運転適性検査器材を用いた検査によるものに基づく指導（以下「器材使用による指導」という。）を含む。以下同じ。）及び考査を行うコース（以下「事前体験コース」という。）
 - 指定した講習日の当日に、座学等、社会参加活動の体験及び考査を行うコース（以下「当日体験コース」という。）
 - 社会参加活動を含まない講習を選択する者には、指定日の当日において、講義等、実車による指導（自

自動車等の運転について必要な適性に関する調査でコース又は道路における自動車等の運転をさせることにより行う検査によるものに基づく指導をいう。以下同じ。)・運転シミュレーター操作による指導(自動車等の運転について必要な適性に関する調査で運転シミュレーターの操作により行う検査によるものに基づく指導をいう。以下同じ。)、面接指導及び考査を行うものとする。

(講習時間及び実施期間並びに講習場所)

第6条 講習時間は6時間とし、社会参加活動を含む講習(当日体験コース)及び社会参加活動を含まない講習は、6時間を1日間で行い、社会参加活動を含む講習(事前体験コース)は、6時間を2日間に分けて行うものとする。ただし、社会参加活動を含む講習(事前体験コース)における社会参加活動を体験させる時間の2時間30分は、1時間を単位として、1回1時間の活動を3日間にわたり実施することも差し支えないものとする。

2 講習場所は、社会参加活動の体験をさせる場所を除き、県細則第30条のとおりとする。

(学級の編成)

第7条 社会参加活動を含む講習及び社会参加活動を含まない講習のいずれも、1学級の編成は、原則として9人編成とし、運転適性指導については、1グループ3人以内とする。

2 講習は、1学級につき講習指導員1人を配置し、運転適性指導は、1グループにつき講習指導員1人を配置するものとする。この場合において、講習指導員が2人以上となるときは、中心となる講習指導員を指定し、この者の指示により、効果的な講習を行うものとする。

3 受講者の態様に応じた適切な講習を実施するため、免許種別及び違反態様に応じ、原則として四輪車又は二輪車の学級編成を行い、それぞれの学級に適した内容の講習を実施するものとする。この場合において、受講人員が少ないため、これらの区分による学級編成が困難であるときは、講習事項の一部について、合同で行うことができるものとする。

(社会参加活動)

第8条 社会参加活動の活動内容の選定に当たっては、運転免許に係る講習等に関する規則(平成6年国家公安委員会規則第4号)第6条に定めるところに従い、県内の実情に応じたものを選定するものとする。この場合において、活動内容は、運転者の資質の向上に資する活動に限定されていることに留意するものとする。

2 社会参加活動は、一般的には、次のような活動が考えられるが、その他地域の実情に応じて多様な活動ができるものとする。

- (1) 歩行者の安全通行のための通行の補助誘導
- (2) 交通安全の呼び掛け、交通安全チラシの配布などの広報啓発
- (3) 交通安全チラシ、ポスター等の作成
- (4) カーブミラーの清掃等の道路上の環境整備
- (5) 放置自転車の整理及び撤去の補助

3 公益財団法人沖縄県交通安全協会連合会、地区交通安全協会、地域交通安全活動推進委員協議会等の地域の交通安全組織・団体はもとより、幅広く社会福祉団体その他の各種組織・団体と密接に連携し、社会参加活動の実施先の確保に努めるものとする。

4 講習の受講期間は、1か月間と限られていることから、社会参加活動の実施予定は、少なくとも1か月間程度組まれていることが必要であり、実施計画の策定に当たっては、おおむね次表に掲げるところにより、計画的な実施に努めるものとする。

区分	社会参加活動の講習日及び場所	社会参加活動の内容の種類
事前体験コース	・座学等を行う講習日までに2回以上 ・おおむね受講者の住所地を管轄する警察署管内	各回につき1種類以上
当日体験コース	・1か月に2回以上 ・運転免許センター等の周辺	各回につき2種類以上

5 受講者の社会参加活動体験中における各種事故の発生に備えて、社会参加活動について保険契約を締結しておくものとする。

6 社会参加活動を体験させる場合におけるその確認方法は、あらかじめ講習の委託先と社会参加活動を実施する組織・団体との間で定めたとところによるものとし、相互に負担のかからないできるだけ簡便なものとする。

とする。この場合において、具体的な確認方法としては、受講者名簿若しくは違反者講習通知書に設けた確認欄への押印又は署名、当該組織・団体発行の証明書等が考えられる。

(運転適性指導)

第9条 自動車等の運転について必要な適性に関する指導は、筆記による検査、運転適性検査器材を用いた検査、自動車等の運転をさせることにより行う検査及び運転シミュレーターの操作をさせることにより行う検査に基づいて行うものとする。

2 筆記による検査は、「科警研編運転適性検査82-3」又はこれと同等以上のものを使用し、受講者全員について実施し、診断票により検査の結果に基づいて安全運転の心構えを指導するものとする。

3 器材使用による指導は、必要と認める者について実施し、診断票により検査の結果に基づいて安全運転の心構えを指導するものとする。

4 実車による指導は、次のとおりとする。

(1) 四輪車により指導する場合は、講習効果の観点から、原則として道路において行うものとし、二輪車(自動二輪車及び原動機付自転車をいう。以下同じ。)により指導する場合は、講習効果、安全性等の観点を勘案し、コース、コース及び道路又は道路で行うものとする。

(2) 前号の場合における実車指導の内容(以下「講習路」という。)設定については、四輪車により指導する場合は、四輪車のコース設定の基準と診断の着眼点(特定講習の実施等に関する規則(平成19年沖縄県公安委員会規則第11号)別表第3)、二輪車により指導する場合は、二輪車技能診断課題設定の基準(同規則別表第4)に準じることとし、停止処分者講習の短期講習における講習路設定の基準と均衡のとれた基準とするものとする。

(3) 道路で実車による指導をする際には、講習用車両に「講習中」である旨を表示する標識を見やすい位置に掲示するものとする。

(4) 受講者が保有する免許の種類に対応する自動車又は原動機付自転車を使用するものとする。ただし、対応する自動車がない場合には、次の措置を採ることができるものとする。

ア 大型免許を保有する者は、中型自動車又は普通自動車を使用すること。

イ 中型免許を保有する者は、普通自動車を使用すること。

ウ 大型自動二輪免許を保有する者は、普通自動二輪車を使用すること。

(5) 身体障害者が自己保有の改造車両の持込みを希望した場合は、これを認めることとするが、手数料上の特例は設けられていないことをあらかじめ了知させるものとする。

(6) 実車による指導においては、検査結果に基づき運転行動診断票を作成し、これにより指導を行うものとする。この場合において、運転行動診断票は、運転技能診断票(特定講習の実施等に関する規則別表第7)に準ずるものとする。停止処分者講習の短期講習において使用するものと均衡のとれたものを使用するものとする。

5 運転シミュレーター操作による指導は、次のとおりとする。

(1) 実車による指導に加えて、実車による指導のみでは指導が困難な交通事故、その他危険場面等について、運転シミュレーターの操作により擬似体験させ、受講者の運転行動の危険性を診断して指導を行うものとする。

(2) 運転シミュレーター操作による指導は、必要と認める者に対して行うものとする。

(3) 使用する運転シミュレーターは、保有する免許の種類に応じ、四輪車用、自動二輪車用又は原動機付自転車用とする。ただし、原付免許保有者には、原動機付自転車用の運転シミュレーターを整備するまでの間、自動二輪車用で代替することができるものとする。

(考査の実施)

第10条 考査は、講習を通じて得られたもの、今後の安全運転への心構え等を課題として与え、筆記方式(感想文)により20分で提出させる方法で行うものとし、終了後は、結果に基づいて講評して、今後の安全運転の動機付けを行うものとする。

(講習の委託)

第11条 講習を委託する場合は、府令第38条の3に定める基準に適合する者を選定するものとする。この場合において、適正な委託契約によって講習の委託を行い、十分な講習水準が維持され、講習が適正に行われるよう、常時指導に当たるものとする。

(報告)

第12条 講習の委託を受けた機関において講習を実施したときは、講義等の講習を終了した日の当日のうち、違反者講習実施結果報告書（様式第7号）により報告するものとする。

（講習指導員の要件）

第13条 講習指導員は、講習実施者として適格性を有する者をもって充て、受講者数に応じて必要な数を確保するものとする。

2 講習における指導に従事する講習指導員の要件は、次に掲げるところによるものとする。

(1) 25歳以上の者であること。

(2) 講習における指導に用いる自動車等を運転することができる運転免許（仮免許を除く。）を現に受けている者であること。

(3) 次のいずれにも該当しない者であること。

ア 運転適性指導について、不正な行為をしたため運転適性指導員、停止処分者講習指導員、高齢者講習指導員又は違反者講習指導員のいずれかの職を解任された日から起算して2年を経過していない者

イ 法第117条の2の2第11号の罪を犯し罰金以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又はその執行を受けることがなくなった日から起算して2年を経過していない者

ウ 自動車等の運転に関し、自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律（平成25年法律第86号）第2条から第6条までの罪又は法に規定する罪（イに規定する罪を除く。）を犯し禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又はその執行を受けることがなくなった日から起算して2年を経過していない者

(4) 次のいずれにも該当する者であること。

ア 運転適性に関する業務に関し、次のいずれかに該当する者であること。

(ア) 運転適性検査指導者資格者証の交付を受け、運転適性に関する業務に従事した経験の期間がおおむね1年以上ある者

(イ) 公安委員会が運転適性に関する業務に関し(ア)に掲げる者と同等以上の技能、知識及び経験を有すると認める者

イ 自動車の運転に関する技能及び知識の指導に関し、次のいずれかに該当する者であること。

(ア) 普通自動車に係る教習指導員資格者証及び大型自動二輪車又は普通自動二輪車に係る教習指導員資格者証の交付を受け、自動車の運転に関する技能及び知識の教習に従事した経験の期間がおおむね1年以上ある者

(イ) 普通自動車に係る届出教習所指導員課程及び大型自動二輪車又は普通自動二輪車に係る届出教習所指導員課程を修了し、自動車の運転に関する技能及び知識の教習に従事した経験の期間がおおむね1年以上ある者

(ウ) 公安委員会が自動車の運転に関する技能及び知識の指導に関し(ア)又は(イ)に掲げる者と同等以上の技能、知識及び経験を有すると認める者

(5) 次のいずれかに該当する者であること。

ア 公安委員会が行う講習における指導に必要な技能及び知識に関する審査に合格した者

イ 講習における指導に必要な技能及び知識に関する国家公安委員会が指定する講習（自動車安全運転センターが実施する新任運転適性指導員研修、運転適性講習指導員研修又は違反者・停止処分者講習指導員研修）を終了した者

3 違反者講習の講習内容のうち、社会参加活動の体験をさせることのみを担当する者については、前項の要件に該当する必要はないが、社会参加活動そのものが講習内容であることに鑑み、それぞれの活動についての講習指導員としてふさわしい者であると公安委員会が認める者をもって充てるものとする。

（講習施設）

第14条 所要の受講者を収容できる必要な教材を整えた教室等を整備し、講習の実施に必要な施設を確保するものとする。

（講習用教材）

第15条 府令第38条第13項第2号に定める教材について、次のとおり整備するものとする。

(1) 教本、視聴覚教材等は、違反者講習にふさわしい教本及び県内の交通実態に関する資料並びに危険予測、事故事例等に関する視聴覚教材等を必要数整備するものとする。

(2) 筆記による検査のために所要の運転適性検査用紙を必要数整備するものとする。

(3) 実車による指導が適正かつ効果的に実施できるよう、所要の自動車及び原動機付自転車を必要数整備

するものとする。

- (4) 大型自動車及び中型自動車については、補助ブレーキ等の装置を装備したもの、普通自動車については、マニュアル式及びオートマチック式のものに補助ブレーキ等の装置を装備したものとする。
- (5) 大型自動二輪車及び普通自動二輪車については、マニュアル式及びオートマチック式のもの、原動機付自転車については原則としてスクータータイプのものとする。
- (6) 自動車等の構造見本
- (7) 運転シミュレーターは、型式認定を受けたもの等の適正なものを整備し、運転シミュレーター操作による指導の実効が期されるよう、四輪車用、自動二輪車用及び原動機付自転車用の運転シミュレーターを必要数整備するものとする。この場合において、悪天候により、実車による指導が困難なときは、代替の措置が取れるようその整備に努めるものとする。
- (8) 器材使用による指導が実施できるよう、動体視力検査器、夜間視力検査器及び運転において必要な視覚を通じた刺激に対する反応の速度及び正確性を検査する器材を備え付けるものとする。

(講習効果の測定)

第16条 講習の効果を測定するため、受講者の受講後における交通違反、交通事故の発生状況を追跡調査し、資料化及びその活用に努めるものとする。

(事故防止)

第17条 講習中の各種事故防止に万全を期すため、講習指導員に特段の配慮をさせるとともに、特に二輪車の実車による指導に際しては、ヘルメット、プロテクタ、手袋等を確実に着用させなければならない。

2 二輪車による講習において、聴覚障害者及び聴力に不安があるため講習を受けるに当たり安全を確保するための特別な対応を受けることを希望する受講者を含めて集団講習を行う場合には、何らかの不測の事態が発生した際にこれに対処できるように、無線による意思伝達装置を使用するなどの措置を講ずることにより、受講者の安全を確保すること。

3 講習に係る事故に備え、対人等の保険に加入すること。

(登録等)

第18条 公安委員会は、講習を実施し、又は第12条の報告を受けたときは、講習修了者についての登録、整理等を行うものとする。

(委任)

第19条 この規則に定めるもののほか、違反者講習の実施に関し必要な事項は、警察本部長が定める。

附 則

この規則は、平成26年11月21日から施行する。

別表 (第4条関係)

違反者講習の講習科目及び時間割等に関する細目

(その1・四輪運転者用)

講習科目	講習細目	講習方法	留意事項	時間
	開講 講師の自己紹介 受講者の点呼 講習概要及び日程の説明 受講者心得の説明			110分
1 道路交通の現状	(1) 交通障害の状況 (2) 交通規制	講義 教本、自動車等の構造見本、視聴覚教材等	○ 県内の実情に応じて交通障害(事故、渋滞、公害、生活環境の侵害)の発生状況等を重点的に説明し、その関連において交通規制の概要を説明する。	
2 交通事故の実態	(1) 運転者に起因する事故の実態及びその原因分析 (2) 重大事故の実例 (3) 交通事故の惨状		○ 単なる数字の羅列に終始することなく、多角的な分析に基づいて、受講者にとって身近な事実に関する数字の使用等によって実感として感得させる。 ○ 交通事故の被害者の惨状及び加害者の窮状を実例で示す。	

<p>3 運転者の社会的立場</p>	<p>(1) 運転免許の意義 (2) 運転者の責任</p>		<p>○ 教本、視聴覚教材を用い、運転者の責任感及び交通徳の向上を図る。</p>	
<p>4 安全運転の心構え</p>	<p>(1) 安全運転の基本的考え方 (2) 安全運転の実践 (3) 事故防止のポイント</p>		<p>○ 自己中心的な運転マナーを矯正し、ルールを正しく実践できる心の醸成を図る。 ○ 交通状況に応じた安全運転の実践方法を具体的事例を用いて説明する。 ○ 県内における交通事故の典型的（多発）パターンの中から、その原因となった危険行為5～7種を抽出し、事故防止のポイントを十分に認識させる。</p>	
<p>5 安全運転の基礎知識</p>	<p>(1) 安全な運転 (2) 防衛運転 (3) 人間の感覚と判断能力 ア 視覚の特性 イ 過労等の影響 (4) 飲酒運転の危険性</p>		<p>○ DVD等の視聴覚教材を活用する。 ○ 速度に起因する具体的な事故事例を用いるとともに、科学的な根拠に基づく説明で、速度の危険性を理解させる。</p>	
<p>6 道路交通法令の知識及び安全運転の方法</p>	<p>(1) 走行の基本 ア 座席ベルトの着用 イ 運転操作 ウ 進路変更 (2) 歩行者の保護 (3) 自転車に乗る人の保護 (4) 車間距離 (5) 追越し (6) 交差点の進行 (7) 駐車と停車 (8) 危険な場所などでの通行 ア 夜間、トンネル イ カーブ ウ 悪天候等 (9) 高速道路の通行 ア 高速走行の危険性 イ 高速道路への出入り ウ 高速走行の方法 (10) 二輪車に対する注意 ア 二輪車の特性 イ 二輪車事故の特徴 (11) 事故と故障時の措置</p>		<p>○ 座席ベルトの着用については、着用の効果等を具体的事例に基づいて説明する。 ○ この科目の細目は、実情に応じて重点的選択的にとりあげることとする。 ○ DVD等の視聴覚教材を活用する。</p>	
<p>7 構造取扱いの知識</p>	<p>(1) 安全運転に必要な構造取扱い及び日常点検要領 (2) 事故原因となる故障の発見と整備方法</p>		<p>○ 日常点検の必要性和点検項目、点検要領を説明して体得させる。 ○ カットエンジン、カットシャシー等の器材を実際に作動し理解させる。</p>	
<p>8 事故事例研究に基づく安全運転の方法</p>		<p>発表（適宜、ディスカッション方式をとる。）</p>	<p>○ 身近な事故事例を素材として受講者に発表させる等、事故の原因となる危険行為等を受講者自身に考えさせ、正しい運転方法を理解させる。</p>	<p>30分</p>
<p>9 運転適性についての診断と指導 ①</p>	<p>(1) 筆記による診断と指導 (2) 運転適性検査器材の使用による診断と指導</p>	<p>個別的指導 教本、運転適性検査器材、視聴覚教材等</p>	<p>○ 所要の運転適性検査用紙により実施し、結果に基づいて安全運転の心構えを指導する。 ○ 運転適性検査器材により実施し、結果に基づいて安全運転の心構えを指導する。</p>	<p>40分</p>

			○ 事故に結び付きやすい違反行為をした者及び筆記による検査の結果により必要と認める者について実施する。	
○ 社会参加活動を含む講習				
10 社会参加活動	(1) 活動方法の説明 (2) 現場活動	活動内容に応じて、必要な資器材を用いて行う。		150分
	考査		○ 講習を通じて得られたもの、今後の安全運転への心構えなどを課題として与え、筆記方式(感想文)により提出させる方法で行い、結果を講評して、安全運転の動機付けをする。	30分
講習時間合計				360分
備考1 休憩時間は、講習時間以外に適宜設けること。				
2 「運転適性検査器材の使用による診断と指導」を行う場合には、「事故事例研究に基づく安全運転の方法」を省略することができる。				
○ 社会参加活動を含まない講習				
10 運転適性についての診断と指導②	(1) 実車による診断と指導 (2) 運転シミュレーター操作による診断と指導	実技 教本、自動車、運転シミュレーター、視聴覚教材等	○ 実車を運転させ、講習指導員が同乗して運転行動、事故や違反に結び付く危険な運転個癖等を診断し、その結果に基づく指導を行う。 ○ 運転シミュレーターを操作させ、交通事故やその他危険場面等について疑似体験させ、運転の危険性を診断し、その結果に基づく指導を行う。 ○ 事故に結び付きやすい違反行為をした者及び実車による指導の結果により必要と認める者について実施する。	120分
11 面接指導		個別的指導 (適宜、ディスカッション方式をとる。)	○ 本人の違反経歴に運転適性検査と実車指導の結果とを照合して、特に個々の指導が必要であると認められる受講者については、個々面接の方法で受講者に運転特徴等を説明し、以後の安全運転に資するための指導を行う。 ○ その他の受講者については、グループ討議等の方法で安全運転意識の高揚を図る。	30分
	考査		○ 講習を通じて得られたもの、今後の安全運転への心構えなどを課題として与え、筆記方式(感想文)により提出させる方法で行い、結果を講評して安全運転の動機付けをする。	30分
講習時間合計				360分
備考1 休憩時間は、講習時間以外に適宜設けること。				
2 「運転適性検査器材の使用による診断と指導」又は「運転シミュレーター操作による診断と指導」を行う場合には、「事故事例研究に基づく安全運転の方法」又は「面接指導」を省略				

し、「運転適性検査器材の使用による診断と指導」及び「運転シミュレーター操作による診断と指導」を行う場合には、「事故事例研究に基づく安全運転の方法」及び「面接指導」を省略することができる。

(その2・二輪運転者用)

講習科目	講習細目	講習方法	留意事項	時間
	開講 講師の自己紹介 受講者の点呼 講習概要及び日程の説明 受講者心得の説明			110分
1 道路交通の現状	(1) 交通障害の状況 (2) 交通規制	講義 教本、自動二輪車、原動機付自転車、視聴覚教材等	○ 県内の実情に応じて交通障害（事故、騒音、暴走行為、生活環境の侵害）の発生状況等を重点的に説明し、その関連において交通規制の概要を説明する。	
2 交通事故の実態	(1) 二輪車事故の実態 (2) 二輪車事故の特徴 (3) 重大事故の実例 (4) 交通事故の惨状		○ 単なる数字の羅列に終始することなく、多角的な分析に基づいて、受講者にとって身近な事実に関する数字の使用等によって実感として感得させる。 ○ 交通事故の被害者の惨状及び加害者の窮状を実例で示す。	
3 運転者の社会的立場	(1) 運転免許の意義 (2) 運転者の社会的責任 (3) 交通事故（違反）を起こした運転者の責任		○ 教本、視聴覚教材等を用い、運転者の責任感及び交通徳の向上を図る。 ○ 運転免許制度の意義を説明し、運転者に対する社会の要望について具体的事例、新聞の社説、投稿意見等を活用して理解させる。 ○ 刑事上の責任、民事上の責任及び行政上の責任について、交通裁判例、点数制度の仕組み等を事例として具体的に説明することによって認識させる。	
4 安全運転の心構え	(1) 安全運転の基本的考え方 (2) 安全運転の実践 (3) 事故防止のポイント		○ 自己中心的な運転マナーを矯正し、ルールを正しく実践できる心の醸成を図る。 ○ 交通状況に応じた安全運転の実践方法を具体的事例を用いて説明する。 ○ 県内における二輪車事故の典型的（多発）パターンの中から、その原因となった危険行為5～7種を抽出し、事故防止のポイントを十分に認識させる。	
5 安全運転の基礎知識	(1) 二輪車の特性 (2) 車種の選び方 (3) 乗車用ヘルメットの着用 (4) 二輪車と物理の法則 (5) 人間の感覚と判断能力 (6) 飲酒運転の危険性		○ 乗車用ヘルメットの着用については、事例、統計等によってその必要性及び効果を強調し、正しい着用の習慣づけを図る。 ○ DVD等視聴覚教材を活用する。	
6 道路交通法令の知識及び安全運転の方法	(1) 走行の基本 ア ドライビング・スペースとポジション イ 防衛運転		○ 二輪車事故の特徴との関連で特に防衛運転に徹する必要性を強調する。 ○ この科目の細目は、実情に応	

	(2) 歩行者の保護 (3) 速度と車間距離 (4) 追越し (5) 交差点通行 (6) 夜間走行 (7) 気象条件に合わせた運転 (8) 高速道路の通行 (9) 改造車の運転禁止		じて重点的選択的に取り上げる こととする。 ○ DVD等視聴覚教材を活用する。	
7 構造取扱いの知識	(1) 安全運転に必要な構造取扱い (2) 日常点検要領		○ 日常点検の必要性と点検項目、点検要領を説明して体得させる。 ○ 自動二輪車又は原動機付自転車を使用して実施する。	
8 事故事例研究に基づく安全運転の方法		発表(適宜、ディスカッション方式をとる。)	○ 身近な事故事例を素材として受講者に発表させる等、事故の原因となる危険行為等を受講者自身に考えせ、正しい運転方法を理解させる。	30分
9 運転適性についての診断と指導 ①	(1) 筆記による診断と指導 (2) 運転適性検査器材の使用による診断と指導	個別的指導 教本、運転適性検査器材、視聴覚教材等	○ 所要の運転適性検査用紙により実施し、結果に基づいて安全運転の心構えを指導する。 ○ 運転適性検査器材により実施し、結果に基づいて安全運転の心構えを指導する。 ○ 事故に結び付きやすい違反行為をした者及び筆記による検査の結果により必要と認める者について実施する。	40分

○ 社会参加活動を含む講習

10 社会参加活動	(1) 活動方法の説明 (2) 現場活動	活動内容に応じて、必要な資器材を用いて行うこと。		150分
	考査		○ 講習を通じて得られたもの、今後の安全運転への心構えなどを課題として与え、筆記方式(感想文)により提出させる方法で行い、結果を講評して、安全運転の動機付けをする。	30分
講習時間合計				360分

備考1 休憩時間は、講習時間以外に適宜設けること。

2 「運転適性検査器材の使用による診断と指導」を行う場合には、「事故事例研究に基づく安全運転の方法」を省略することができる。

○ 社会参加活動を含まない講習

10 運転適性についての診断と指導 ②	(1) 実車による診断と指導 ア 日常点検 イ 乗車姿勢 ウ 基本走行 (7) 発進要領 (4) 低速走行及び通常走行 (7) 停止要領 エ 応用走行 (7) 制動訓練 (4) コーナリング訓練	実技 個別的指導 (適宜、ディスカッション方式をとる。) 教本、自動二輪車、原動機付自転車、運転シミュレーター、視聴覚教材等	○ 実車を運転させ、講習指導員が追尾するなどして運転行動、事故や違反に結び付く危険な運転個癖等を診断し、その結果に基づく指導を行う。 ○ 実習に当たっては、乗用車ヘルメットを必ず着用させるほか、手袋、プロテクタ、衣服及び履物等乗車に適した準備をさせる。 ○ 速度30キロメートル程度で走	120分
------------------------	--	--	---	------

	(ウ) スラローム走行等の 訓練 (2) 運転シミュレーター操作 による診断と指導		行させ、正しい基本走行を修得 させる。 ○ 運転技能を診断するに当たっ て、個々の受講者の体格、体 力、運転技能、運転経験等から 見て、本人に適した車種の選 び方についても指導する。 ○ 運転シミュレーターを操作さ せ、交通事故やその他危険場面 等について疑似体験させ、運転 の危険性を診断し、その結果に 基づく指導を行う。 ○ 事故に結び付きやすい違反行 為をした者及び実車による指導 の結果により必要と認める者 について実施する。	
11	面接指導	個別的指導 (適宜、ディ スカッション 方式をとる。)	○ 本人の違反経歴に運転適性検 査と実車指導の結果とを照合し て、特に個々の指導が必要であ ると認められる受講者について は、個々面接の方法で受講者に 運転特徴等を説明し、以後の安 全運転に資するための指導を行 う。 ○ その他の受講者については、 グループ討議等の方法で安全運 転意識の高揚を図る。	30分
	考査		○ 講習を通じて得られたもの、 今後の安全運転への心構えなど を課題として与え、筆記方式 (感想文)により提出させる方 法で行い、結果を講評して、安 全運転の動機付けをする。	30分
講習時間合計				360分

備考1 休憩時間は、講習時間以外に適宜設けること。

2 「運転適性検査器材の使用による診断と指導」又は「運転シミュレーター操作による診断と指導」を行う場合には、「事故事例研究に基づく安全運転の方法」又は「面接指導」を省略し、「運転適性検査器材の使用による診断と指導」及び「運転シミュレーター操作による診断と指導」を行う場合には、「事故事例研究に基づく安全運転の方法」及び「面接指導」を省略することができる。

様式第1号 (第2条関係)

沖公委 (免) 第 号 年 月 日				
公安委員会 殿				
沖縄県公安委員会 印				
違反者講習移送通知書				
次の者について違反者講習移送通知書を送付する。				
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; border-right: 1px solid black; padding: 5px;">住 所</td> <td style="padding: 5px;"></td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 5px;">氏 名</td> <td style="padding: 5px;"></td> </tr> </table>	住 所		氏 名	
住 所				
氏 名				

生 年 月 日	年 月 日生
免 許 証 番 号	第 号 年 月 日 公安委員会交付
免 許 の 種 類	
理 由	<input type="checkbox"/> 道路交通法第102条の2に該当
基準該当時公安委員会	
備 考	

備考1 基準該当時公安委員会欄には、違反者講習の基準に該当することとなった時における住所地在を管轄する公安委員会名を記載すること。
2 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とする。

様式第2号（第2条関係）

沖公委（免）第 号 年 月 日	
公安委員会 殿	
沖縄県公安委員会 印	
違反者講習移送通知書	
次の者について違反者講習移送通知書を送付する。	
本邦における住所	
氏 名	
国際運転免許証等の番号	第 号 年 月 日
運転することができる自動車等の種類	
理 由	<input type="checkbox"/> 道路交通法第107条の4の2に該当
基準該当時公安委員会	

備	考	
---	---	--

備考1 基準該当時公安委員会欄には、違反者講習の基準に該当することとなった時における住所
地を管轄する公安委員会名を記載すること。
2 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とする。

様式第3号（第2条関係）

		沖公委（免）第 号
		年 月 日
公安委員会 殿		
沖縄県公安委員会 印		
違反者講習通知移送通知書		
次の者について違反者講習通知移送を送付する。		
住 所		
氏 名		
生 年 月 日	年 月 日生	
免 許 証 番 号	第 年 月 日 公安委員会交付	
免 許 の 種 類		
理 由	<input type="checkbox"/> 道路交通法第102条の2に該当	
基準該当時公安委員会		
講 習 通 知	年 月 日 沖縄県公安委員会通知	
備 考		

備考1 基準該当時公安委員会欄には、違反者講習の基準に該当することとなった時点における住所
地を管轄する公安委員会名を記載すること。
2 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とする。

様式第4号（第2条関係）

	沖公委（免）第 号
--	-----------

年 月 日

公安委員会 殿

沖縄県公安委員会 印

違反者講習通知移送通知書

次の者について違反者講習通知移送通知書を送付する。

本邦における住所	
氏 名	
国際運転免許証等の番号	第 号 年 月 日
運転することができる自動車等の種類	
理 由	<input type="checkbox"/> 道路交通法第107条の4の2に該当
講習通知	年 月 日 沖縄県公安委員会通知
基準該当時公安委員会	
備 考	

備考1 基準該当時公安委員会欄には、違反者講習の基準に該当することとなった時における住所地在を管轄する公安委員会名を記載すること。

2 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とする。

様式第5号（第2条関係）

沖公委（免）第 号
年 月 日

公安委員会 殿

沖縄県公安委員会 印

違反者講習期間経過通知書

次の者は、違反者講習を受講しないで受講期間を経過したので通知する。

住 所	
-----	--

氏 名	
生 年 月 日	年 月 日生
免 許 証 番 号	第 年 月 号 日 公安委員会交付
免 許 の 種 類	
備 考	

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とする。

様式第6号（第2条関係）

沖公委（免）第 号 年 月 日	
公安委員会 殿	
沖縄県公安委員会 印	
違反者講習期間経過通知書	
次の者は、違反者講習を受講しないで受講期間を経過したので通知する。	
本邦における住所	
氏 名	
国際運転免許証等の番号	
運転することができる自動車等の種類	

備	考	
---	---	--

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とする。

様式第7号（第12条関係）

年 月 日

沖縄県公安委員会 殿

講習受託機関名
管理者 印

違反者講習実施結果報告書

下記の者について、道路交通法108条の2第1項第13号に規定する講習を 年 月 日に終了したので報告する。

記

番号	氏名 生年月日	住所	性別	免許証番号	講習の実施 区分	講習指導員の 氏名	備考

沖縄県公安委員会告示第131号

道路交通法（昭和35年法律第105号）第108条の4第1項の規定により次の者を指定講習機関に指定したので、指定講習機関に関する規則（平成2年国家公安委員会規則第1号）第3条の規定に基づき、次のとおり公示する。

平成26年11月21日

沖縄県公安委員会

指定講習機関の名称	合資会社宮古自動車学校
所在地	宮古島市平良字西里1334番地
代表者	砂川恵信
講習の種別	道路交通法第108条の2第1項第2号に掲げる講習
指定年月日	平成26年10月31日

発行所
沖縄県総務部
総務私学課
電話番号 098-866-2074

印刷所 株式会社 ちとせ印刷
〒901-2131 浦添市牧港二丁目1番5号